

平成29年9月相模原市教育委員会定例会

日 時 平成29年9月8日(金曜日)午後2時30分から午後4時00分まで

場 所 相模原市役所 教育委員会室

日 程

1. 開 会

2. 会議録署名者の決定

3. 議 事

日程第 1 (議案第60号) 学校人材育成方針について (教育局)

4. 報告案件

1 平成29年度全国学力・学習状況調査結果概要について (学校教育課)

5. 閉 会

出席者 (6名)

教 育 長 野 村 謙 一

教育長職務代理者 永 井 博

委 員 福 田 須美子

委 員 大 山 宣 秀

委 員 永 井 廣 子

委 員 平 岩 夏 木

説明のために出席した者

教 育 局 長 笹 野 章 央 教 育 環 境 部 長 渡 辺 志 寿 代

学 校 教 育 部 長 奥 村 仁 生 涯 学 習 部 長 長 谷 川 伸

教 育 局 参 事 兼 大 用 靖 教 育 総 務 室 担 当 課 長 江 野 学
教 育 総 務 室 長 (総 務 企 画 班)

教 育 総 務 室 担 当 課 長 岡 本 達 彦 教 育 局 参 事 兼 齋 藤 嘉 一
(人 事 給 与 班) 総 合 学 習 セ ン タ ー 所 長

総 合 学 習 セ ン タ ー 岡 部 尚 紀 総 合 学 習 セ ン タ ー 主 幹 大 貫 努
担 当 課 長

学 校 教 育 課 長 松 田 知 子 学 校 教 育 課 担 当 課 長 古 屋 礼 史

学校教育課指導主事 川 邊 亮 子 教職員人事課 菊 池 政 弘
担 当 課 長

事務局職員出席者
教育総務室主任 島 崎 順 崇 教育総務室主任 齋 藤 竜 太

開 会

野村教育長 ただいまから、相模原市教育委員会 9 月定例会を開会いたします。本日の出席は 6 名で定足数に達しております。

本日の会議録署名につきましては、永井博委員と平岩委員を指名いたします。

学校人材育成方針について

野村教育長 それでは、これより日程に入ります。日程 1、議案第 6 0 号、学校人材育成方針についてを議題といたします。事務局より説明をいたします。

齋藤総合学習センター所長 議案第 6 0 号、学校人材育成方針の策定についてご説明申し上げます。

本議案は、県費負担教職員の給与負担等が神奈川県から本市に移譲されたことを契機に、市立小中学校の教職員のさらなる人材育成を図るため、学校人材育成方針を策定するにあたり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 2 5 条の規定により、提案するものでございます。

恐れ入りますが、別紙「学校人材育成方針（案）」をご覧いただきたいと存じます。

はじめに、1 ページ下段の学校人材育成方針の概要についてでございます。

学校人材育成方針は、教員人材育成方針及び学校職員人材育成方針からなり、市立小中学校教職員を対象とした人材育成方針でございます。位置付けといたしましては、全ての職員を対象とした相模原市人材育成基本方針の下位に位置付けられ、各局等が組織の実情にあわせて定める組織固有の方針と同等のものでございます。このため、学校人材育成方針の内容には、相模原市人材育成基本方針において掲げられた職員評価制度、人事、コンプライアンス推進、ハラスメント対策、ワークライフバランス推進、メンタルヘルス対策を含めず、学校固有の課題に必要とされる能力の育成や、学校の特性を生かした人材育成の推進を図るための取組として、主に研修について掲載しております。

次に、3 ページをご覧いただきたいと存じます。ここでは、教員人材育成方針についてご説明いたします。

はじめに、1 の求められる教員像についてでございます。求められる教員像につきましては、教育愛にあふれ、社会の中で学び続ける教員とし、具体的には、1 つ目として信

頼られる教員、2つ目として人間性豊かな教員、3つ目として指導力向上に努める教員といたしました。

次に、2の求められる資質・能力についてでございます。(1)の教育職としての本質に迫る力では、豊かな人間性、自己の資質や能力の啓発、社会の一員としての自覚、(2)の子ども理解と個・集団を育てる力では、状況把握力と共感的理解、子どもの成長を見据えた指導力、(3)の専門性を高める力では、わかる授業実践、確かな学力の保障、授業改善力、(4)のマネジメント力を高める力では、学校運営への参画、意識改革、学校内外のネットワークづくりを、求められる資質・能力といたしました。

次に、5ページをご覧くださいと存じます。人材育成の課題と具体的取組についてでございます。はじめに、1の人材育成の課題についてでございます。

昨今の社会情勢や教育情勢の変化により、様々な教育課題が指摘されております。このような状況の中、(1)として教育職としての専門的知識を備え、それらを活用し実践する教員の育成を課題とし、具体的な取組といたしましては、中段にございますように、教員の専門性獲得を支援する研修の提供と職場研修いわゆるOJTの実施といたしました。ライフステージ研修や専門研修、学校への訪問支援研修、授業力の向上に向けた取組などがございます。

5ページの上段にお戻りいただき、(2)といたしまして、特に、子どもの貧困対策や基礎学力の定着に一層力を注ぐことが求められておりますことから、地域や関係機関と連携し実践する教員の育成を課題とし、それに対する具体的な取組といたしまして、6ページ上段にございますように、児童生徒理解や支援に関わる研修の提供とOJTの実施といたしました。具体的には、支援教育コーディネーター研修や児童虐待対応担当者会などに、青少年教育カウンセラーやスクールソーシャルワーカーを講師として招き、実施するものなどがございます。

恐れ入りますが、再度5ページにお戻りいただきたいと存じます。

(3)といたしまして、各校において経験の浅い教員が増加する中、教育課程や授業方法の改革へ対応するため、教員の資質向上を図ることが喫緊の課題となっていることから、教育現場でミドルリーダーとなり得る教員の育成を課題とし、具体的な取組といたしましては、6ページ下段にございますように、ミドルリーダーを育成する研修の提供とOJTの実施といたしました。具体的には、中堅教諭等資質向上研修や学校運営推進者研修、県外研修、長期派遣研修などを実施するものなどがございます。

以上で、議案第60号の説明を終わらせていただきます。よろしくご決定くださるようお願いいたします。

野村教育長 説明が終わりました。1つ申し添えますと、今、所長から説明がありましたけれども、5ページの人材育成の課題と具体的な取組の(2)のところで、地域や関係機関と連携し実践する教員の育成という部分で、特に生育環境に課題を抱えている子どもたちへ寄り添った対応をすることが非常に大事だという意味で、この問題についてはスクールソーシャルワーカーや福祉関係機関などよく連携をとって対応しなければならないものであり、そういった能力も求められているということで、あえてここで強く打ち出したところです。

それでは、何かお気づきの点とか、ご意見がありましたらお願いをいたします。

永井(博)委員 3ページの2、求められる資質・能力の(2)に子どもの理解と個・集団を育てる力とあり、私は集団を育てる力というのは、とても大事だと思っています。そのような中で、子どもの成長を見据えた指導力として互いを大切にし、高め合える集団をつくることができるとありますが、学級経営に係る部分はどこに入っているのでしょうか。

また、5ページ、6ページでOJTがありますが、事務局側で期待したようなものが行われるかどうか、チェックするようなシステムはあるのでしょうか。

齋藤総合学習センター所長 1点目でございますが、3ページの(2)の子ども理解と個・集団を育てる力の2つめの四角の子どもの成長を見据えた指導力の右側、互いを大切にし、高め合える集団の中に学級経営等についても含まれております。

岡部総合学習センター担当課長 2点目のOJT、各学校における職場研修の実態についてでございますが、各学校が校内研究を推進していく上で、様々な講師をお招きしていると承知しております。それについて、総合学習センターでは講師を派遣する研修の内容について、どこの学校がどの程度どのような講師をお招きしているかは、概ね把握しているところでございます。

永井(博)委員 もう1つよろしいでしょうか。OJTですが、私は極端に言うと例えば朝の打合せから学年会や職員会議なども含めてOJTだと思っています。ですから、質を高める工夫を何かの形で学校へ伝えていただきたいと思います。職員会議はおそらく、月に1回程度行っていると思いますが、全職員が集合して行われるわけですから、業務連絡や伝達だけで終わらずに、職員の力がつくような何か工夫をしていく必要があるのではな

いかと思っています。

齋藤総合学習センター所長 ご指摘いただいた内容につきましては、私どももどんな形なら先生方に力をつけていただけるかというあたりを非常に課題としてとらえているところでございますので、検討してまいります。

野村教育長 他にご意見がありましたらお願いいたします。

福田委員 いろいろな研修があることは非常にいいことだと考えますが、一方で同時に繁忙化にも繋がってまいりますので、研修を受けた方が受講資料を学校に持ち帰り、それを共有していくように推進していただきたいと思います。

また、それぞれ学校の課題というのは、調査などにより見えてきているかと思いますが、それに対してどう取り組んでいくのかということも含めて、話し合わなければならないと思います。6ページに特別研修等ということで、英語教育推進リーダー中央研修とありますが、小学校における英語教育が始まったからやるということではいけないと思います。英語教育の研修としては、専門家やネイティブの人などと各学校に合ったプログラムを作っていくような形で、実施すると良いのではないのでしょうか。私は、小学校の先生方も英語力を身に付けたいと強く思っていると思うのです。ですので、そのような機会を作っていただく、あるいは、例えば英検等の試験を受けるときの受験料を無料化することで、自己研修ができるような形を推進していくことなどもご検討いただきたいと思います。英語の習得には、本当に時間がかかります。私も英語でとても苦労しておりますので、やはり小学校の先生が自信をもって授業ができるように、そうした自己研修等についての計らいも考えていただければと思います。

あわせて、道徳教育についても教科化に伴って対応しなければなりませんので、どういう形で研修を実施することがいいのか研究を進めていただきたいと思います。相模原市の先生方は、研究し合うというところは非常に慣れていると思いますし、新しい課題と相模原市特有にある課題等をうまく解決の方向に持って行ってほしいと思います。

岡部総合学習センター担当課長 まず、小学校の英語につきましては、英語教育推進リーダー中央研修に本市の代表者を1名、一週間ほど派遣をいたしまして、その代表者になった先生を講師として、市内の小学校72校から代表者1名ずつを集めて研修を実施しております。この研修は2日半に亘って実施しておりますが、新しい英語教育を目指した授業づくりに役立つ内容となっており、参加された先生方が各校に戻り、必ずその内容を伝達することで、各校における英語教育のさらなる充実を目指しているところでございます。

また、小学校道徳の研修につきましては、対応型公開授業研修講座ということで、道徳の授業や指導に優れた教諭に授業を公開していただき、多くの先生方に参加いただくとともに学習指導要領研修講座の道徳で、学習指導要領の趣旨を研修してまいりました。

さらに、指導主事が講師になりまして、市内72校の先生方に新しい道徳の学習指導要領の趣旨についてお伝えし、その先生方が校内で伝達する研修も実施しているところがございます。今後も、さらなる充実に努めてまいりたいと考えております。

齋藤総合学習センター所長 今、ご説明いたしました伝達研修にプラスして委員のご指摘のように、自己研究等についても検討してまいりたいと考えております。

野村教育長 研修を受ける先生方というのは限られた職員なので、その先生方が学校に帰って、どれだけきちんと発信して伝えられるかがポイントと考えます。その辺りを何らかの形で検証することも大事だと思うので、そこをよろしくお願ひしたいと思います。

平岩委員 求められる資質・能力の1番ですが、(1)教職員として本質に迫る力ということで、豊かな人間性など3点が挙げられていまして、先生になられる方は多分こういったものは最初からお持ちだと思いますが、その中の1つで社会の一員としての自覚で、「広い視野で社会変化を感じることができる」という力を持っていたとしても、意識的に持ち続けるという意識が必要なのではないかと感じます。5ページに人材育成の課題がありまして、その中で貧困対策や基礎学力の定着に一層力を注ぐことが求められているとあります。このことについては大変問題になっておりますので、スクールソーシャルワーカーの方と連携していく中で社会の動きというものを、意識しておくことが必要ではないかと思ひます。

齋藤総合学習センター所長 総合学習センターで行う研究だけではなく、各学校にスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等が関わる中で、その課題についてもきちんと打開していくように取り組んでまいりたいと考えております。

永井(廣)委員 3ページの2の(2)子ども理解と個・集団を育てる力のところで、「状況把握力と共感的理解」という項目がありますが、先生方の共感能力が低下してきているのではないかと危惧しております。例えば、勉強がわからなかったことがないまま育ってしまふと、苦勞しているお子さん方に寄り添うことが難しいのではないかと思ひことがあります。子どもに寄り添うことは本当に大事なことでと思ひますので、そういう力を持てる先生を育てていただきたいなと思ひております。

岡部総合学習センター担当課長 委員のご指摘のとおり、状況把握力と共感的理解につき

ましては、総合学習センターとしても大変大切な資質能力と承知しております。そのため、子どもを取り巻く様々な環境を理解して、子ども一人ひとりと向き合えるような教員を育成するため、ライフステージ研修の初任者研修、2年次研修、3年次研修、あるいは中堅教諭等資質向上研修において、常に子ども理解を重点テーマとして定め、「子どもがそれについてどう考えるかな」や、「子どもだったらどう受け止めるかな」ということを常に投げかけながら、資質向上が図られるように研修に努めているところでございます。

また、ライフステージ研修以外にも児童生徒理解研修講座を実施しており、アンガーマネジメントや児童虐待をテーマに取り上げまして、講師をお招きし、資質能力を高めているところでございます。

野村教育長 今、永井委員と平岩委員がおっしゃったことは共通のお話だと思いますが、日ごろから様々な社会的事象に対し、広い視野を持ってとらえるような習慣というか、そういうものが先生自身の中で育まれていないと、やはり日々の現場の中でのことだけに、とらわれてしまうことが心配な点であります。その部分をいかにフォローアップするか今後も考えていただきたいと思います。他にはいかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

野村教育長 では、他に質疑、ご意見がございませんので、これより採決を行います。

議案第60号、学校人材育成方針についてを原案どおり決するにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

野村教育長 ご異議ございませんので、議案第60号は可決されました。

平成29年度全国学力・学習状況調査結果概要について

野村教育長 続きまして、報告案件1、平成29年度全国学力・学習状況調査結果概要について、事務局より説明をいたします。

奥村学校教育部長 それでは、4月18日に実施されました、平成29年度全国学力・学習状況調査結果概要について、ご報告させていただきます。

本調査は、平成25年度に悉皆調査となり、5年目となりました。調査の目的は、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることでございます。今回の相模原市の結果につきましては、大変重く受け止めており、課題を改善していくために、早急に取り組むこと、中長期的に取り組むこと

を明らかにしてまいります。既に、小中学校校長会や関係機関等は課題の改善に向け、連携を始めているところでございます。

それでは、配付資料の相模原市発表資料をご覧ください。担当からご説明させていただきます。

川邊学校教育課指導主事 本市の結果についてご報告いたします。上段が小学校、下段が中学校の結果を示しております。それぞれ、小学校国語A B、算数A B、中学校国語A B、数学A Bの調査問題について、平均正答数及び平均正答率を記載しております。A問題は主として知識に関する問題で、B問題は主として知識の活用に関する問題でございます。縦軸には上から相模原市、神奈川県、全国を記載し、一番下の段に全国との差を載せています。全国平均正答率と本市の平均生徒率との差は小学校国語Aでは、マイナス4%、国語Bではマイナス3%、算数Aではマイナス6%、算数Bでマイナス4%となっております。中学校では国語A Bともに、0%。数学Aではマイナス3%、数学Bではマイナス1%でございます。

裏面をご覧ください。

こちらには、教科に関する結果及び生活習慣や学習習慣等に関する質問調査の結果で特徴的なものについて記載しています。国語に関しては、小中学校ともに漢字を正しく書くことに課題が見られました。算数・数学に関しては四則及び整数と少数が混合した計算や反比例の理解に課題が見られました。質問調査の結果に関しましては、学習習慣、規範意識、地域社会への関心について課題が見られたとともに、携帯電話やスマートフォン等の利用時間には大きな課題が見られました。今後、教育委員会といたしましては、学力の向上と生活習慣等の向上に関する取組を行ってまいります。具体的には、授業における指導や支援を充実させるための人的配置やすぐに使える資料の提供を行うとともに、放課後等を利用した補習学習の実施に向けて、学校や関係機関と連携して取り組んでまいります。生活習慣等向上に関する取組としましては、生活習慣と学力の相関関係も見られることから、基本的な生活習慣の確立や家庭学習の充実に向けて、啓発資料を提供するなど、学校と家庭が連携をして状況の改善を図ることができるよう働きかけてまいります。以上で報告を終わります。

野村教育長 説明が終わりました。

ただいまの内容につきまして、質疑等がございましたらお願いいたします。

永井(博)委員 各新聞でも大きく取り上げられていましたので、私も目をとおしている

のですが、かなり衝撃的で今回の結果を重く受け止めなければならないものであり、今回の結果を今後どう活かすのかに尽きるのではないかと思います。発表されてから日が浅く、2学期も始まったばかりで具体の方向性は決まっていなと思われませんが、一番大事なのは先生方一人ひとりがどのように受け止めていて、日々の授業にどう活かすかが一番問われるのではないかと考えています。

また、この数字は市の平均値だと思いますが、多分市内でも全国や神奈川県平均を上回っている学校がある一方で、下回っている学校もあるのだと思います。そこで、学校には今回の結果がどのように伝わり、各学校ではどういう動きが始まろうとしているのか、あるいは始まっているのかをお聞きします。

松田学校教育課長 今回の結果につきましては、学校長に今回の結果にプラスして、もう少し詳細な内容を伝えております。また、全教職員に調査結果のデータを共有するよう伝えとともに、教職員一人ひとりが見られるパソコンのトップページにおいても結果を掲載しております。

今回の結果を受けての取組としましては、各学校における取組、校長会としての取組、そして教育委員会としての取組があると考えておまして、まずは各学校での分析を必ず行い、今、永井委員がおっしゃられたように各学校のそれぞれの傾向というものもあるので、それをしっかり把握して、取組をしてほしいと校長会へ依頼してまいりました。既に、校長会では取組を始めておまして、ブロックという小さいグループ内でブロックの課題を捉えて目標を立てて取り組んでいこうとしております。

また、教育委員会としましてもすぐ取り組めることとして、提供する教材を見やすい形にするほかに小学校と中学校の情報を共有できるように取り組んでまいります。

永井(博)委員 よくわかりました。もう1つ、よろしいでしょうか。

小学校と中学校にはそれぞれ研究会があり、様々な研究を行っていると思いますが、やはり学力対策も大きな研究テーマですので、小と中の研究会が方向性を1つにしてやっていただきたいなと考えています。

それから、役割でいうとやはり教育委員会は制度を作ったり人的配置を検討することが大きな仕事だと思います。

また、先ほど課長からも話がありましたが、様々な資料提示、資料提供をわかりやすく行うことが大事で、それらを総合的にやっていかないと成果は出ないのかなと考えています。そうした取組の結果、子どもたちが毎日授業を楽しく迎えて、1日が終わるとい

が一番大事なことだと思います。

今、色々申し上げましたが、私は順位を上げるということよりも、学力を上げてほしいです。順位は取組の結果で付いてくるものでしょうし、子どもたちに学力を付けるのも考える力を付けるのも、友達と仲良く関われる力を付けるのも根っこは多分同じなのではないかと思っています。そういう意味で、勉強だけできればいいということ言うわけではありませんが、基礎学力の定着は学校のやるべきことですので、少しとがった表現かもしれませんが、各学校に期待したいと思います。

野村教育長 今の点について、私からちょっとお話をさせていただきます。

まず、取組については、委員からご指摘があったように学校には研究会として、様々な分野の研究をする先生方のグループがございます。ですから、この件については、先日も校長会の役員や会長に集まっていたいて、教育委員会と校長会それから研究会が連携をして取り組みましょうということを確認したところです。

それから、今回の結果については学校間格差が大変激しいです。これは、本市だけではなく、国もよく経済格差が既に学力の格差に結びついているという見解を出していますが、まさにその通りだと理解をしています。そういう意味では成育環境に課題を抱えた子どもたちへの支援に係る施策が本市はまだ足りていないが、大きな問題だと思っています。ですからそれに対して早急に策を立てていくことで、既に市長部局とも話を進めています。

一方で、基礎基本の定着ということに対しての取組が足りなかったというのが現在の結果だと理解しているところです。

問題は他にも幾つかあるのですが、やはり子どもにアンケートをとると、課題にも掲げてありますように、スマートフォンや携帯電話に関わっている時間が1日4時間以上と長く、長時間利用のお子さんの比率が神奈川県や全国と比較しても大変多い状況です。

また、アンケートの中で「勉強が将来役に立つと思っていますか」という問いに対して「思っている」と答えている子が非常に少ないところです。このことが勉強をする上での動機付けの部分で大切なわけですから、ある意味、学力をつけるということについては、キャリア教育というものと結びつけて何のために勉強をして、将来の夢や希望が持てる一貫した教育の柱のようなものが大事なんだと感じています。

繰り返しになりますが、施策としては学習サポートとして、既に多くの自治体が行っている事例がございます。そのため、春から取組事例を視察に行ったり、いろいろ研究を進めていますので、早急に現場と教育委員会が連携をして、対応してまいりたいと思っ

ています。

平岩委員 先ほど永井委員もおっしゃいましたが、新聞やニュースで大変大きく取り上げられまして、関心度は十分高いと思います。ただ、関係者や学校の先生方は重く受け止めていらっしゃると思いますが、各家庭がどの程度、この数字に対して実感をもって受け止めたかは分からず、私の知る範囲の中ではしっかり受け止めている感じがまだありません。特にこのように数字が出てきますと「0.1ぐらいの差でしょ」となり、良い方にどうしてもとろうとします。先生方、学校がいろいろな取組をしていくのはもちろん大切ですが、やはり家庭学習の充実は、家庭の理解やみんなでやらなければいけないという認識を持ってもらわないとできないと思います。

ですから、学校、先生が子どもや家庭にどのように伝えていらっしゃるのか、どのように伝えていくのかということも考えなければいけないし、学校だけでなく市として、家庭も巻き込んだ機運を盛り上げる働きかけを考えていかなければいけません。なかなか簡単にはいかないような気がいたします。

野村教育長 ご指摘のとおりだと思います。学校のアンケートを同時にやっています、その結果を見ると保護者への周知であるとかそういう部分も本市の場合は浅いという状況がわかっていますので、今の点についてはやはり取り組むべき内容だと思います。

松田学校教育課長 ご指摘ありがとうございます。保護者や家庭への周知や呼びかけというところについては、これまでも教育委員会から生活状況に関するものを実態を踏まえ、こういうことに気をつけてくださいと資料提供をしております。それに合わせて、学習については各学校で「こういう結果だったので、このことに学校としても取り組んでいきますので協力してください」と言っていると思いますが、教育委員会としましても学校間の差が出ないように、保護者に向けた協力依頼の文書に係るひな型を作成し、学校へ発信したところです。

福田委員 この結果を見まして、やはり国語が全ての基本であり、漢字を正しく書くことや考えを書くことについては、大きな課題になっていると思います。私は大学で教職課程を担当していますが、教師を目指す学生たちも書くことが非常に課題でして、書き順も含めて正しく書くということになってきますと、間違える学生が多いと感じております。どういうふうを書くのか、特に小学校の段階で子どもたちのそうした疑問に答えるため、丁寧に正しく書くことを教師が意識的に取り組まないと、いけないのではないかなと思うようになりました。やはり言葉は大事なので丁寧に学んでいくような仕組みを作っていた

きたいと思います。

松田学校教育課長 書くことについては、1つの方法ではなく、いくつかの段階があると考えておまして、1つは繰り返しの練習が必要と思います。また、それに合わせて、教師も教えたことを国語の授業だけではなく、いろいろな場面で書く機会を作る必要があると考えます。そうしたことを教師も意識しなければいけないと思っております。

永井(廣)委員 漢字を書くことについては、覚えれば点数が上がるはずのものだと思うのですが、娘の例を出しますと小学校のときにある年だけ突出して漢字を勉強していた年がありました。その時は、担任の先生のモチベーションの上げ方がすごく上手で、頑張っ
て勉強すると先生に褒めてもらえたり、はなまるを付けてもらったので、それが嬉しくてやっていたようです。その結果、その学年の漢字はずっときちんと覚えていますし、それなりの成績が取れていまして、当時の先生のおかげだなと感じているところです。

そのような中で、相模原市よりも他市の点数が高いという結果を見ますと、他市の取組から何か学ばなければならないところがある気がしています。今回の結果は残念ですが、これだけ点数に差が出てしまう理由は何かなと思いますので、突き詰めて考えていかなければなと思います。例えば、相模原市よりも他市の方が教育予算が高いのかとか、市オリジナルで授業のやり方を工夫しているのかなどを研究することも大事だと思います。

野村教育長 先ほど申し上げたように、1つ分析しているのは、やはり課題を抱えたお子さんたちへの施策が足りない、これはもう明確です。あとは、今おっしゃったように個々の教師の力量に頼る部分もあるわけですが、共通の取組として基礎基本ができているか、学力の定着状況の確認が足りているかについて、現在分析をしています。

松田学校教育課長 教育委員会として、反省も含めてやっていかななくてはいけないことは、授業の作り方と考えております。今までも、先生方は教材研究をして取り組んでいたのですが、授業における興味関心の部分や話し合い活動などを重視していたところがあります。それは、それで大事にしながらも、やはり授業の中で必ず基礎的なところに取り組む活動をルーティーンに入れていくとか、それが定着したのを見る時間というものも必ず入れていくなど、授業設計についても見直さなければいけないと考えております。

福田委員 学校図書館の活用も大切だと思います。この夏の教育研究発表の中でも図書館はいろいろなことに取り組んでいたわけですが、小中学校の子どもたちが図書館を利用して中身を膨らませていく機会がちょっと少ないように思いました。市によっては学校司書が集まって、自校の図書館の利用状況やどんな本が今、読まれているかを情報共有し学校

に持ち帰り、自校の授業に活かす取組をやっているようです。小学生の朗読コンテストだとか、いい本を読んだので、みんなに広める読書会みたいなものを小学生にも中学生にも場を作るなど、子どもたちのための図書の間というのを充実させていただきたいと思えます。

川邊学校教育課指導主事 学校図書館や地域にある図書館の利用につきましては、質問調査から経年で見てみますと減ってきている傾向が見られます。学習指導要領では、学校図書館の利用をいろいろな教科で行うように言っておりますので、図書館の活用について周知してまいりたいと考えております。

永井（廣）委員 今後の取組として、放課後や土曜日、長期休業期間等を利用した補習学習とありますが、現在も中学校で夏休み期間中に補習学習をやっていただいています。ですが、やはり部活動がある子はなかなか出られないこともあろうかと思えますので、部活に完全に被らない日に実施したり、部活優先ではなく補習に出られるようにする必要がありますと思えます。普段部活動で忙しくしている子こそ学力が足りない場合があったりするので、検討が必要かなと思えます。

また、小学校の成績の付け方ですが、現在の付け方では自分の子が勉強ができないとはわからないと思えます。中学校に入り、テストをやったり最初の成績が出てきて初めて、「うちの子はこんなにできないんだ」と驚く保護者も多いと思えます。「小学校の成績表で丸が付いていれば大体できているのだろう」と、そんなに危機感なく思えます。そのため、あまり自分の子どもができていないということに気付かない、わからないということが相模原市は多いのではないのかと思えます。本人もこれはまずいと思って、点数が明確に現れますからそこから勉強を始めるということもあるかと思うのです。

なので、小学校の時にこの部分ができていないということが、もう少し明らかになるといいのかなと思えます。

野村教育長 成績の付け方についての意見ですが、この点についてはどうですか。

松田学校教育課長 確かに、本市の小学校の成績表は割と大きな捉え方であったり、所見についても学期で変わる形になっていますので、具体的にどこができないかが見えづらいところがあります。小学校については、各学期や懇談会後に保護者の方と話す機会を設けて、そこで具体的なこと等を伝えるなどの対応をしております。今の時点で、具体的に成績表の付け方の見直しに係る考えはございませんが、いただいたご意見をもとに今後、検討していかなければならないと考えております。

野村教育長 子どもも保護者も客観的な評価という部分ができることは大事ですよ。そこが足りないとすれば、それに対して何か改善をすべきと考えます。

大山委員 中学校になるとある程度自分の成績が見えてくるということですが、それは文部科学省の全体的な方針なののでしょうか。私は、小学校の評価方法がどちらかというと、おそらく的確に差が出るようなものではなく広い範囲での評価になっているので、個人や保護者のモチベーションが上がってこないのではないかと危惧しています。公立の小学校と私立の小学校とでは成績の付け方が明らかに違いますよね。そこで伺いたいのですが、保護者や子どもがモチベーションを上げられるような客観的な数字評価は、公立の小学校でもできるのでしょうか。

川邊学校教育課指導主事 現在の評価に関しましては、小学校でA B Cの3段階、中学校で5段階となっており違いがございます。小学校の評価は、学習指導要領ではBが基準とされておりますので、目標を達成できたならばBで評価しておりますが、やはり毎時間毎時間どのような力を付けさせたいかということが、とても大切になってくると考えます。ですので、成績表の評価もそうですが本市で重点としております、見通す、振り返る学習活動という視点で、今日は何ができるようになったらいいかということ子どもにも見通しをさせて、授業の最後に振り返るときにも今日何ができるようになったかを押えていくことが大事だと考えております。その積み重ねが、最終的に成績に表れていくように教育委員会が指導助言をしていく必要があると考えております。

大山委員 具体的な成績の付け方がよくわかりませんが、AとBの評価の差は成績表で表現できるのではないのでしょうか。クラス担任が、「この子は基礎学力がちょっと足りないかな」ですとか、「この子は基礎学力があれば応用の方も並行して進めていいのではないかな」などと考えていても、今の成績表では評価として出てこないため、言葉でしか伝えられないのかなと思います。子どもの学力の状況は、教師として把握ができていると思いますので成績表で表現できるのではないかと思います。いかがでしょうか。

川邊学校教育課指導主事 具体的な成績の付け方についてでございますが、例えば国語科の評価の観点として「関心・意欲・態度」「話す」「聞く」「読む」「書く」の5つがありまして、漢字だけの評価はなく、漢字を書いたり読んだり、また、ことわざを理解するなど言葉に関する知識・技能として評価しております。漢字テストをすればと漢字だけの評価はでき、十分子どもたちも自身の学力を把握はできると思うのですが、成績表に現れてくるのは、漢字以外の観点も入っておりますので、わかりにくいのだと考えております。

平岩委員 先ほど、教育長が客観的に見せる方法が必要ではないかとおっしゃっていました。その中で成績表の話が出てきたと思いますが、小学生の場合、個人個人で成長度合いもかなり違いますし、そういった部分も含めて見てあげようということで、今の成績表の付け方ができているのだと思います。評価が成績表だけではなく、例えば計算力、漢字力ということに力を置くという意味であれば、普段の小テストの状況だとかをきちんと数字で表すということにもなると思うので、客観的に見せるイコール学校の成績の付け方というのはちょっと違って、もう少し途中で考えるべきことがあるのではないかと思います。

野村教育長 そうですね。ですから、何らかの方法で、子ども、教師、保護者を含めて、どういう点で、まだ足りない部分があるのかということをいろんな機会を確認する必要があると思います。それらは検討の余地が十分にありますので、取り組んでいきたいと思えます。

福田委員 学力の向上に関する取組として補習学習がありますが、いろいろ課題を抱えている子どもたちの実情を把握した上で、重点的に補習を行っていく必要もあらうと思われまます。そこで、今後の補習授業の展望を教えてくださいたいと思えます。

野村教育長 今、お話がありました、放課後や土曜日、長期休業中に実施している補習学習は、他の自治体と比較したときに開催頻度が浅く、課題と認識していますので、今後充実させたいと考えています。

それから、貧困等の理由でなかなか塾に行ったり、家庭の中で保護者から指導を受ける環境にないようなお子さんも多くいらっしゃいますので、放課後や休日等を使って、民間のNPO団体、それから退職された校長先生、あるいは学生ボランティアの方々に、いろいろ力を借りる中で、1つではなく、複数の取組を実施するため、現在検討を始めているところです。

この施策の柱については1, 2カ月の間で、具体的な内容を詰めまして改めて紹介をさせていただきます、ご意見を頂戴したいと思います。なお、こうした状況については、市長をはじめ、幹部にも情報と今後の対応すべき内容について話をしているところです。

笹野教育局長 様々ご意見をいただきました中で、やはり1つ、学校が取り組むことと別に、教育委員会としてサポートできることをもっと充実してやろうということで現在研究をさせていただいているところであります。教育長からお話させていただいたように、サポートの仕方につきましては、既に今年の夏から公民館の方にも協力を得て学校教育と生涯学習が協力をして、橋本公民館と上溝公民館で補習学習を行う取組を始めました。その

中では新たな試みとして、退職された先生にご協力をいただいて、公民館に自由に子どもたちが来て勉強する形で実施いたしました。参加した子どもたちを見た先生からは、子どもたちが利用できる場所を作り、そこに来て学習をする取組はとてもよかったと話を聞いておりますので、こうした取組をはじめとして、幾つか学校の勉強をさらに補う取組にも力を入れていきたいと思っています。いずれにしても、これから何らかの形で人員的な配置、それからそうした場の提供といった、どうしても、予算や人の力を借りることがございますので、ぜひ教育委員の皆様にもご理解とご意見をいただいて、予算措置に取り組んでいきたいと思っております。

永井（廣）委員 先ほどの話に関連することですが、先生方が例えば面談する時間というのは、一人当たり10分、15分なので保護者に何を伝えるかが重要です。面談も学期に1回あるかないかで、そのときに伝えてもらえるのは、周りの人に迷惑をかけていないか、忘れ物がないか、提出期限が守れているかといった基本的な話で大体終わってしまい、あまり学力の話ができていないと思います。もちろん、あまりにまずいなということなら学習面も教えていただけたと思いますが、親と先生が学力の部分で意思の疎通を図るのは、今までのやり方だと難しいのかなと思うので、もう一工夫あると良いと思います。

あとは、先日の研修会で無料塾を紹介いただいて、後日個人的に無料塾を見学させていただいたのですが、場所をとるのも一般の抽選によって確保しているそうですので、せめて優先予約ができるようにしたり、無料で部屋を利用できるようにするなどの対応をしてほしいと思いました。やはり、子どもたちも何曜日と何曜日に無料塾をやるよということがわからないと不安になりますし、この間は月曜日と木曜日だったのに今月は水曜日と金曜日になると困ると思います。学習支援を行う事業ですので、もう少し優遇してあげる制度を設けるなどしてあげられないかなと思いました。

野村教育長 公民館での学習支援については、今、居場所づくりと支援の場の拠点として、使っていくことが望ましいのではないかという議論を内部でしています。そうした中で統一的な取組がもう少しできないかを、検討していきたいと思っております。

永井（博）委員 長くなり申し訳ないのですが、各校で今回の結果をしっかりと分析をして、各校で対策を作る方がいいと、冒頭で言いました。事務局にお願いしたいのは、相模原市、神奈川県、全国との差という資料を見ていると本市の状況は悪いなと思っていますが、もう少し本市のことを教えていただきたいです。知りたいのは、例えば、平均点は全ての点数の合計値を学校数で割ったものですから、普通は平均点を想像すると、真ん中が一番厚

くて、左右に行くほど徐々に少なくなってくる、いわゆる正常分布曲線を想定してしまうのですが、先ほど、教育長もおっしゃったように学校間格差があると私も感じています。例えば、新聞には今回の全国的な結果から、「大都市、塾で長く勉強、所得の差、教育システムに直結」ということが出ておりました。相模原市も鉄道が通っている駅近のところと緑豊かなところがある中で、課題を抱えている児童生徒が多く、対策はとても大事なことでと思いますが、小学校も経験している中学校の校長にたまたま最近会って話をしたら、「自校の結果もよくない」ですとか、「数学のテスト中に途中から寝てしまっている子どもいた」と伺いまして、どこかの新聞にも無回答が多いというのがありましたが、テスト中に諦めて寝ているんだとすれば点数がよくなるわけがないし、そういった子たちの点数を上げていくのが良いのか、あるいは、全体的に点数を上げる対策を打つべきなのかで手立てが違ってくると思うのです。

ですから、そのような実態がわかるような資料があれば、取組を検討する際の参考になりますので、今後提供いただければと思います。事実として所得の低い地域の学校は成績が低いようですが、そこにこそ公立学校の意義があるはずだと私は思っています。公立学校の先生は、励ましながら根気よく丁寧に積み上げて、国語も算数も頑張れば大丈夫だよと伝えてあげながら点数を上げてあげるのが仕事だと思います。

ですから、何か評論家のようなことを言うつもりはありませんが、各学校も結果を分析すると同時に、行政でも本市の分析をしっかりしてほしいと思っています。

野村教育長 資料は別途また、提供をさせていただきたいと思います。明らかなのは、所得の低い家庭の児童生徒は点数も低い状況で、全体の平均を下げているという実態は確かだということです。

笹野教育局長 細かい分析につきましては、永井委員がおっしゃったように学校ごとにきちんと分析をしますし、教育委員会でも各学校の分析をして学校とも話をし、今後のことを定めていきます。分析のため、ちょっとお時間をいただいて、また改めて教育委員会でもご説明をさせていただきます。委員がおっしゃったように底上げをどうするかということを考えて取り組んでいく必要があると考えています。ただ、これは学校ごとに大きな違いがありますので、それぞれの分析とそれぞれの対応を学校ごとに研究をして、取り組んでいく必要があると思っております。

野村教育長 その他には、いかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

野村教育長 よろしいでしょうか。施策の具体的なお話については、またご意見をいただく機会を作りたいと思います。

先ほど、公民館のお話もありましたが、学力は「生きる力、自立する力、将来を選択する力」の基本的なもので、非常に大切なものだとして教育委員会でも捉えていますので、総合学習センターでは教師の力を上げていくことにこれまで以上に力を注ぎますし、学校教育課においてはこれまで以上に授業改善ですとか、具体的な市全体の取組についての共通化を図ることに力を注ぎます。

それから、生涯学習部においては公民館であるとか、図書館であるとかやはり子どもの力を伸ばすために、できる施策はあると考えていますので、委員会全体でこのことについては、課題認識を持って取り組んでまいりたいと思っています。

では、この件についてはよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

野村教育長 それでは、この件に係る報告は以上とさせていただきます。

最後に、ここ1カ月の活動報告ということで、主たることをお話しさせていただきます。

8月の前半には教育委員会で所管している小倉プールなどの老朽化した体育施設の視察に行き、課題を把握してまいりました。

それから、中旬には本市から全国大会に出る生徒が出場報告に来てくれました。これは公立だけではなく、私立学校の生徒も来ていただき、剣道や柔道、硬式テニス、水泳、陸上といった競技で出場する選手10数名を激励しました。

また、8月18日には、本市産業会館で東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた、さがプロ2020の取組の一貫で研修を行いまして、オリンピックのレガシーを学ぼうということで早稲田大学の間野教授にご講義をいただきまして、オリンピックと子どもたちとの関係性について、いかに意義付けていくか講義を受けたところであります。

それから、22日は先ほど永井委員をはじめ、みなさんにもご観覧をいただいた教育研究の発表会がありました。私もそれに出て、幾つか見せていただきました。お話があった無料塾の取組を多くの先生が知る機会になり、非常に有意義な取組になりました。私もその後、みのり塾という橋本でやっている塾の視察に行きまして、どんな課題があるのかを主催者の方にお話を聞いてきました。

ですから、市として、こういった支援団体との連携を深めてできる支援はしていきたいと考えているところであります。先ほど、教育局長がお話した2つの公民館で退職校長等

による、学習サポートを実施しました。周知期間が短かく参加した方が少なかったので、こうした取組をぜひ多くの公民館を使ってできるようにしていきたいと考えています。

それから、パラリンピック関係では、総合体育館で26日にかがわパラスポーツフェスタという大きなイベントがありました。ここには本市在住で、車いすテニスの日本代表の中澤監督からパラリンピックの意義などについてお話をいただくとともに、リオデジャネイロパラリンピックの女子マラソンで銀メダルをとった道下選手のガイドランナーを務めた本市の職員から、トークイベントの中でいろいろパラリンピックのことを話してもらいまして、多くの方にパラリンピック、障がい者と共に生きるということについての理解を深める、そんなイベントを開催したところです。

また、同日、博物館ではやぶさのトークイベントがありまして、ここには宇宙飛行士の大西さんにお越しいただいて、多くの市民や子どもたちに宇宙への夢を語ってもらうことで、大変意義深いイベントとなりました。ちなみに参考ですが、はやぶさのプロジェクトマネージャーをしている津田雄一准教授にもお越しいただきましたが、津田さんは本市の相模台中学校の卒業生でして、当日いろいろなお話を聞かせていただきました。

それから、8月下旬に中学校で今年度から新たに副校長になった方の報告会ということで、私と教育局長、学校教育部長等で、各学校の状況などの報告を聞かせていただき、激励をしたところでもあります。

また、現在、市議会9月定例会議が始まっておりますけれども、議会では公民館の有料化の件が代表質問で質疑されているところでもあります。それ以外には、今日も話題になりました学力向上に向けた取組についても質問が出まして、本市としての考え方をお伝えしたところです。

この1カ月間の活動報告としては、以上でございます。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

野村教育長 では、最後に次回の会議予定日でございます。10月6日金曜日、午後2時30分から教育委員会室で開催する予定でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

野村教育長 それでは、次回の会議は10月6日金曜日、午後2時30分から開催予定といたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして定例会を閉会いたします。

閉 会

午後 4 時 0 0 分 閉会